

横小だより

新潟市立

横越小学校発行

R 3・11・8

臨時号



Eメール e407yokogoshi@city-niigata.ed.jp

URL <http://www.e407yokogoshi.city-niigata.ed.jp/>

《シリーズ》



第3回

Yokogoshi

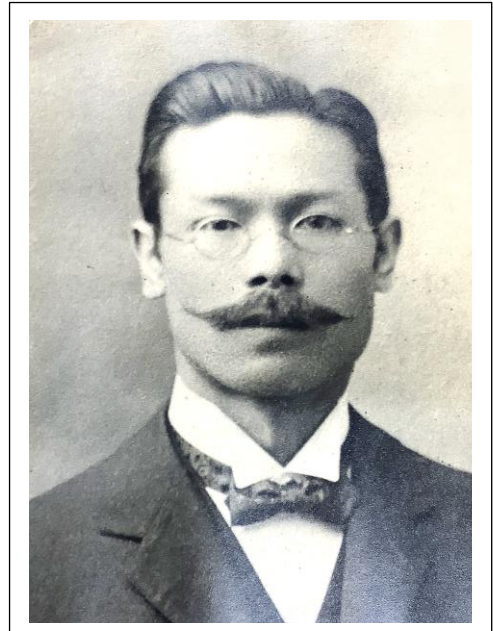
校長

戸田 道治

今回御紹介したいのは、旧横越小学校第3代校長の山川総太先生です。明治11年5月から明治21年3月までの約10年間、横越小学校におられたようです。

横越の歴史に興味を持った私は、旧横越小学校の歴代校長の顔写真が収められたアルバムが小会議室にあるのを見付けました。顔写真の横には、その先生の教育信条や御功績などが記されています。

山川総太校長先生の横には、次の言葉が記されていました。



第3代 山川 総太 校長先生

教育の根基を家庭に置き児童の個性を傷つけぬよう指導の方針を決めた

私は驚きました。明治時代の教育に対する私のイメージは、全体主義的な思想であり、『個性』より『強制』を重視するものでした。

ところが山川校長先生は、この時代に「児童の個性を傷つけぬよう指導の方針を決めた」とのこと。時代が平成から令和に移った『今』なら、それはよく分かります。個性や多様性を認め合うことは、教育界だけでなく社会全体が目指すものとなっています。

それを明治維新の時代の中で、山川先生がいち早くこのように教育方針を決定されたことに強い感銘を受けました。

さらに、第4代高橋岩尾校長先生も第5代五十嵐巳之松校長先生も、第6代仙石習一郎校長先生も、「山川先生の教育方針に則り」と書かれていました。山川校長先生の教育信条が、その後も影響を与え、ずっと引き継がれてきたのです。

「横越」が教育の本質をとらえた魁であり、いかに子どもを大事にしてきた土地であったかを知ることができます。現職の我々にとっても大変心強く励みになるものです。

これを神田館長にお話ししたところ、シリーズ第1回で御紹介した建部遯吾先生を東京に送り出すための出資を呼びかけたのが、(ナント!)この山川校長先生だったそうです。